
仮面ライダーレオン

D a i s y K a t s u r a

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

仮面ライダーレオン

【コード】

N3888B

【作者名】

Daisy Katsura

【あらすじ】

1年前、獣王と言う怪物が地球を侵略しにやって来た。人類はG UYSと言う組織を設立し、獣王に対抗する事にした。人類は平和を勝ち取れるのか？

++プロローグ++

1年前、宇宙の彼方から獣王と言う怪物が地球にやって来た。

獣王は人々を襲い、地球侵略を始めて行った。

絶滅の危機に瀕した人類は、G U Y Sと言う組織を設立。獣王に反撃を開始した。しかし、獣王の持つ目にも留まらぬ高速移動能力<タイムドライブ>に、G U Y Sは敗北を重ねる。

最早、最後の希望は、完成間近の武装システム<マスクドライバーシステム>のみであった。

とは言つものの、これを装備し、使いこなせる者は、ごく少数に限られている。G U Y Sはこれを装備し、使いこなせる人間を捜し出せるのだろうか？

第1話：謎のライダー参上！

上野公園の手前に、G U Y Sの白いワゴンが止まっている。

車内には三人の男女が乗っており、獣王退治の作戦を練っていた。

「吉田、相手はタイムドライブを使って来るかも知れん。相手がそれを使う前に仕留めるんだ。出来れば生け捕りにしろ」

と、吉田に無理難題を押しつけたのは、中年男性の小沢おさわ 伸介だ。
「任せて下さい小沢さん」

吉田はそう言うと、万全の準備をしてからワゴンを降りた。

「さあて、どこからでも来い！」

吉田はそう叫んで身構えた。

すると、吉田が突然吹き飛んだ。

「うわっ！」

ドテッ！ 吉田は地面に叩き付けられた。

「いってえー！」

「どうした吉田！？」

と、G U Y S車から無線が入る。

「解りません！何故か突然、体が吹き飛んだんです！」

「タイムドライブだ！気を付ける吉田！」

「マジかよっ！？」

吉田は慌てて体勢を立て直すと身構えた。

「何処だっ、何処から来るっ！？」

吉田がそう口にした瞬間、

「Time up！」

と、何処からか電子音が聞こえ、ドーンツと言う爆音が聞こえて来た。

「何だ今のっ！？」

驚いた吉田は辺りを見回した。が、爆音の原因となるものは見付からなかった。

「吉田、戻って来い」

「え？」

「良いから戻って来い！」

「了解！」

吉田はG U Y S車へ乗り込んだ。

「吉田、これを見てくれ」

小沢はそう言って、吉田にモニターを見せた。

「あっ、反応が消えてる」

「さっきの爆音と共に消えた」

「と言う事は、何者かが獣王を倒した。そう言う事になりますね」

そう言ったのは、隅っこの方で珈琲を味わっている女性だ。

彼女の名は霧島^{きりしま}直美。吉田の幼なじみで、彼と同じく小沢の後輩である。

「そう言う事になるな」

と、その時、小沢の下に無線が入った。

「小沢だ」

「上野駅周辺に獣王の群れ確認、大至急向かって下さい」

「了解！」

G U Y S車は出発。上野駅に向かった。

上野駅に到着すると、

「げっ、あんなににいるのかよっ!？」

と、獣王の数を数えた吉田が言った。

「吉田、これを持って行け」

そう言って小沢が差し出したのは、金属の重いベルトだった。

中央のバックルには、何かが装着出来る様になっていた。

「これは？」

「35年前にZ E C Tと言う組織が作ったマスクドライバーシステムだ。これを装備すれば獣王とも互角に戦える筈だ」

それを聞いた吉田はベルトを奪い取って装着すると、G U Y S車

を飛び出して行った。

「最も、タイムドライブとクロックアップが同じならばの話だが・・・」

しかしその言葉は、吉田には届いていなかった。

「うっしやあっ!」

吉田は叫ぶと、カプトゼクターを召喚。ベルトにセットした。

「Henshin!」

その瞬間、吉田はカプト・マスクドフォームに変身。

「キャストオフ!」

カプトは素早くゼクターホーンを展開。

「Cast off!」

アーマーが弾け飛び、カプトホーンが起き上がる。

「Change beetle!」

カプトはライダーフォームに移行した。

「てめえらこれ以上好き勝手暴れさせねえっ!」

カプトはそう言うと、サイドバツクルを叩き付けた。

「Clock up!」

クロックアップしたカプトは、目にも留まらぬ速さで獣王を次々に滅却して行った。

しかし、一体の獣王がタイムドライブを発動し、カプトに反撃を開始した。

「うわああああ!」

カプトは悲鳴をあげ、吹き飛んだ。

「Clock over.」

カプトのクロックアップが解除された。

「速すぎて・・・見え・・・ねえ・・・」

カプトはそう言い残すと変身を解除。地べたに膝を着いた。そんな吉田に、獣王が襲い掛かった。

「避ける吉田!」

しかし、時既に遅し。獣王は吉田の目前に迫っていた。

もう駄目だ 誰もがそう思った時、一匹のライオンが現れ、獣王の横っ腹に猛スピードで突っ込んだ。

突っ込まれた獣王は、勢い良く真横に吹き飛んだ。

「ら、ライオン?」

と、首を傾げる吉田。

「逃げる」

ライオンはそう言った。

「らっ、ららっ、ライオンが喋った!」

吉田は驚いて飛び上がった。

「俺はライオンじゃねえっ、神の道行き総てを司る男だっ!」

ライオンはそう言うと、

「Leon, form change!」

と、電子音を発した。

すると、ライオンのボディにヒビが入り、そのボディが一気に吹き飛んでライオンをモチーフにしたライダーが姿を現し、ゆっくと直立した。

「Change, rider form」

「お前何なんだよっ!?!」

その問いにライダーは、空に人差し指を突き立て、

「親父は言っていた。

神の道を往き、総てを司る男・・・俺の名は神道しんどう 総司、と」

第2話：ライダーの名はレオン

「ウツシャア！」

謎のライダーは叫ぶと、

「タイムドライブ！」

と、ベルトの横にあるボタンの様なものを叩いた。

すると、ライダーと獣王を除いて全ての時間が停止した。

「行くぜえ！」

そう発したライダーは、獣王に接近し、連撃を繰り出した。

「5秒で貴様を片付ける！」

ライダーはそう言うと、数を数え始めた。

「5、4、3、2、1」

ライダーはその間、獣王をタコ殴りにした。

「Time up！」

その瞬間、時間の流れが元に戻り、獣王は爆裂霧散した。

「うわっ！」

吉田は爆風で吹き飛ばされた。

ドテッ！ 吉田は地面に叩きつけられた。

「いつてえ！」

と言いつつ、吉田はライダーを捜した。しかし、ライダーは既に姿を消していた。

「吉田、無事か？」

それは小沢からの無線だった。

吉田は応答した。

「はい、一応。」

それより変な奴が現れました」

「ああ、こつちでも確認した。多分あれは、レオンだろ」

「レオン？」

「G U Y S が開発したマスクドライバーシステムだ」

「完成したんですか？」

「どっちらそっちらしい」

「どうしてこうも怪物が多いんだ？」

青年はそう口にした。しかし、誰の返事も無い。

「これからも、こんな事が続くのか……。」

元はと言えば、俺がこんな物を……。」

と、左腕に装着されたブレスを見つめる青年。

そのブレスには、何かがはめられる様になっていた。

青年は前を向くと、歩き出した。

第2話：ライダーの名はレオン（後書き）

やっぱ駄目。ネタが思い付かない。このまま放置になるか、頑張っ
て続けるか、突然の最終回にするか、どうすれば良い？

スランプ状態です。暫く更新停止します。

それと、赤文字うざったいので「完結」にして表示しない様にして
おきました。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3888b/>

仮面ライダーレオン

2009年2月16日03時17分発行